

会派代表質問

ニュービジョン

会派代表質問は2つの会派が行いました。内容は、質問者が口述に基づいて記述しています。

市政運営の取組方針を問う

ニュービジョン(6人)

会長	村上 佳市
副会長	及川 善賢
幹事長	熊谷 伸一
副幹事長	遠藤 秀和
事務局長	白幡 章
顧問	菅原 清喜



菅原 清喜

問 「(仮称)けせんぬま未来アクション」の策定時期、予算規模を伺います。

答 市民会議の意見を踏まえ、現在鋭意取りまとめ中であり、市議会、商工会議所の提案の趣旨も取り入れながら策定します。予算は、令和5年1月に公表した「人口減少パッケージ」において、今後10

年間、各年度1億円を暫定上限として確保しています。既に予算計上しているものもありますが、準備ができたものから、順次予算提案していきます。

問 本市の独自支援策として、出産にかかる費用の完全無償化を行う考えはありませんか。

答 出産に関連して、ご指摘の新たな支援策を新年度予算に計上しています。出産時の費用は、出産する施設、分娩方法、地域など様々な状況によって自己負担額に差があることから、現段階で一律に完全無償化することは難しいと考えます。

なお、国では令和8年度を目途に、正常分娩に係る出産費用への保険適用導入など、出産に関する支援などの更なる強化の検討を進



代表質問の動画はこちら



めており、本市でも国の動向を注視しながら、引き続き、妊娠から切れ目のない支援の充実を図っていきます。

市役所跡地民間活用

問 新庁舎建設に伴う市役所の跡地について、民間活用の考えと官民の役割分担を伺います。

答 今後、事業候補者となり得る企業などを対象に実施するサウンディング(対話型市場調査)の中で、事業の

ポテンシャル(可能性)や、活用に必要なハード整備の諸条件を確認します。これらの結果により、整備内容、市の関与の必要度合や活用可能な補助制度を整理した上で「市役所跡地活用基本構想」を策定し、事業者とのさらなる協議を進めます。

問 農地を後世に引き継ぐためのスマート農業の推進と、スマート農業を行える圃場整備の方向性を伺います。

答 高齢化による担い手の減少下では、農作業の省力化を進め、危険作業を回避し、多様な人材の参画促進を図る観点からのスマート農業の推進と、生産効率を高める圃場整備事業は有効な方策です。一方、スマート農業技術の導入には、費用対効果の課題があり、圃場整備事業においては、長期的な取り組みと地域の合意形成が重要ですので、事業に対する機運を見極め、国の施策などを活用しな

フェンシング競技の更なる振興を



から後押しします。

問 フェンシング競技の更なる競技力の向上への対応を伺います。

答 旧気仙沼西高校体育館の借用は、県教育庁と事前調整を終え、現在、本年4月からの借用に向け、申請の手続きを進めています。フェンシング専用練習場として、試合用ピスト、審判機、初心者体験用のスマートフェンシング用具を購入することとし、当初予算に計上しています。

問 市立2病院の再編に伴い、市立病院に引き継ぐ本吉病院の入院患者の移送などの対応は十分か伺います。

答 入院患者の状態に配慮しつつ、3月末に、市立病院の患者搬送車などにより、安全かつ慎重に搬送します。受け入れ態勢は、病院事業局会議や両院のそれぞれの職種間で合同研修や定例会議を重ね、病棟運用マニュアルを作成しました。また、運用を開始した市立病院の地域包括ケア病棟で、受入れシミュレーションを実施したほか、患者情報の共有化を図るため、両病院に双方の電子カルテシステムを整備し、操作訓練を行うなど、4月からの新体制に向け準備を進めています。

未来の風

会派代表質問

地域包括ケア病棟の 準備状況はどうか



代表質問の動画はこちらから

未来の風10人

会長	千葉 慶人
副会長	佐藤 俊章
副会長	佐藤 健治
副会長	菊田 篤
幹事長	今川 悟
	菅原 雄治
	三浦 友幸
	菅原 俊朗
顧問	村上 伸子
	白井 真人



千葉 慶人

問 施政方針では、人口減少に対応する「社会インフラの適正化」を掲げていますが、具体的には何を意図しているのか伺います。

答 当市では平成29年に「公共施設等総合管理計画」を策定してい

ます。ハコモノにあたる公共施設と、道路、上水道、下水道などのインフラの全施設を対象としており、施設毎に適切な維持管理計画や、統廃合を含めた効果的な施設運営の推進を図るための方針を定め、進行管理を行っています。

自治会などへの 職員の参加を促せ

問 人材育成には、専門分野のみならず、幅広く知見を得ることが重要です。自治会活動への参画、各種人材育成塾への市職員の参加状況について伺います。

答 自治会活動などへの職員の参加については、市民との協働によるまちづくりを推進する上で重要で、自治会、PTA活動や地元の行



事などに積極的に参加するように定期的に通知しており、今後も参加を促します。各種人材育成塾への市職員の参加の状況については、今年度塾生として参加している職員はいますが、その発表報告の場などにはテーマに係る部署を中心とした職員も参加しています。また経営人材育成塾においては、今年度4名参加しているほか、希望した職員4名が伴走者としてサポートを担いながら、ともに学ぶ機会を得ています。

す。このほか、市主催の講演会やまち大学関連事業などへの参加を新規採用職員研修と位置付け、年間5回以上参加するよう通知しています。

商業政策へ もっと力を入れよ

問 施政方針では、各種産業政策が述べられていますが、商業に関しては触れられていません。地域内経済循環を高めるためにも、さらなる支援が必要であると考えますが、その方針を伺います。

答 商店街イベント補助はもとより、気仙沼ビズの開設や、本丸である製品・サービスの開発に対する補助などによる支援を積極的にを行います。また、地域経済循環事業による商店街フィールドワークの実施や気仙沼ファンクラブ会員や気仙沼クルーカード会員への本市に関するイベント情報の発信などについて

引き続き取り組みます。

問 スポーツツーリズムの活用について、受け入れ態勢がまだ十分という指摘があります。地域間競争に勝ち抜くためには早々の対応が必要ですが、これに対する見解と方針を伺います。

答 スポーツツーリズム専門委員会が令和4年3月に設置され、「宿泊」「送迎」「弁当手配」などに関する支援に取り組んでいるものの、「弁当手配」以外については、必ずしもオーダーに答えきれない状態と認識しています。このため、推進体制の見直しと強化が急務であるとの認識に立ち、ワンストップでの受入態勢の構築と効果的な誘致活動が図れるよう取り組みます。

問 市立病院に新たに設置する「地域包括ケア病棟」の4月からの適切な運用開始に対する準備状況を伺います。

答 医療機能再編に向け、両病院の看護師が、合同研修や定例会議を重ね、病棟運用マニュアルを作成しました。そのマニュアルに基づき、両病院の関係職種が参加して、地域包括ケア病棟における受入れシミュレーションを実施しました。また、両病院に双方の電子カルテシステムを整備し、その操作訓練を行うなど、4月からの新体制に向け準備を進めています。

引続き取り組みます。

問 スポーツツーリズムの活用について、受け入れ態勢がまだ十分という指摘があります。地域間競争に勝ち抜くためには早々の対応が必要ですが、これに対する見解と方針を伺います。

答 スポーツツーリズム専門委員会が令和4年3月に設置され、「宿泊」「送迎」「弁当手配」などに関する支援に取り組んでいるものの、「弁当手配」以外については、必ずしもオーダーに答えきれない状態と認識しています。このため、推進体制の見直しと強化が急務であるとの認識に立ち、ワンストップでの受入態勢の構築と効果的な誘致活動が図れるよう取り組みます。



気仙沼市立病院